

岩手県と北海道

国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所

関 博之



最初に岩手県についてご紹介します。岩手県の面積は15,278平方kmありまして、都道府県では北海道に次いで2番目の広さとなっています。北海道と比べると1/5ほどの広さですが、四国を若干狭くしたほどの広さがあります。人口は昭和36年の144.9万人をピークに減少を続け、今年4月には、ついに140万人台を割り込み、推計で139.6万人となったところです。距離的には南北約190km、東西約120kmであり、縦長の長方形に丸みをつけたような形をしています。その西側の秋田県境には奥羽山脈、東側の三陸海岸と中央部の間には北上山地が南北に走っています。奥羽山脈と北上山地の間に北上川が南に向かって流れており、その周囲の平野部に主な都市が展開しています。

県庁所在地は盛岡市で人口約29万人、県都として経済、社会、文化の中心地であり、我々の事務所も盛岡市内にあります。第二の都市が北上市で盛岡の南約50kmのところであり、人口は約9.2万人です。以下、花巻市7.3万人、一関市6.4万人、水沢市6.1万人と続きますが、これらの都市はすべて北上川周辺にあり、北上川流域が県の経済社会の中心となっています。その他の主な都市は県北に久慈市3.6万人、二戸市3万人があり、三陸海岸には宮古市5.5万人、釜石市4.7万人、大船渡市4.5万人などがあります。

気候としては奥羽山脈の山沿い地方は冬に雪の多い日本

海側の気候を、北上山地は高原性、盆地性の気候を示します。また、沿岸部では海洋性の気候を示しますが、宮古以北では寒流の影響のため、一般的に気温が低く、冷害などの気象災害がおこりがちだということです。私は盛岡で一冬過ごしたところですが、雪が降ることが多く、積雪も多いときで50cmほどになりましたが、北海道と違ってそれが寒気で凍り付いてしまうようなことはなく、気温の上昇に伴ってすぐに解けてしまうという状況でした。

この北上川沿いに東京と青森を結ぶ国道4号、東北縦貫自動車道と、八戸までの東北新幹線が走っており、北上川の支川雫石川沿いに盛岡と秋田を結ぶ国道46号と秋田新幹線が走っています。空港は花巻市にあるだけで、広い県土内や県外とを連絡するのは道路と鉄道が主流となっているところです。県内の個人所得の地域別特徴を見てみると、一番高いのはやはり盛岡市とその周辺ですが、それに続くのは北上市、水沢市など県南部の地域で、ここには高速道路のインターチェンジ付近などに工業団地が立地し、多くの企業が進出してきています。三陸沿岸には一般国道45号がありますが、高速交通体系としては未整備であり、現在地域高規格道路の整備が進められているところです。また、三陸沿岸と内陸部を結ぶ路線も三桁の県管理国道しかなく、船舶用の大型コンテナを輸送できない状況であり、新直轄で進められることになった東北横断自動車道花巻遠野道路と、それに続く遠野釜石道路の整備促進が強く望まれているところです。このような交通体系下で、岩手県内の港湾空港は、わが国都道府県で唯一国際定期航路を持っていない状況となっているところです。

このような中で当事務所では国道4号、46号の改築と北上川の改修、八幡平山系の火山砂防事業を担当しています。今年度の事業費は総額で238億円(河川96億円、道路134億円、砂防8億円)、事務所の職員数は183名(事務官73名、技官110名)ということで、北海道開発局という事務所



